

て子など云しこと、見ゆ、

〔和泉式部家集〕柳にみのむしのつきたるをみて

雨ふれば梅の花がさあるものを柳につけるみのむしのなぞ

〔夫木和歌抄〕二七松にみのむしのつきたるをすけちかおこせたりける、

祐舉

いかでかは露にもぬれん雨ふれどもらしがいその松のみのむし

〔新撰字鏡〕天蚕丁珍反、上、豎、蚕、久禮、乃彌々受、

〔倭名類聚抄〕十九蠶附 說文云蠶昨含反、俗爲蚕、和名賀比古、虫吐絲也、玉篇云三消反、和名蠶同、蠶初生也、

〔箋注倭名類聚抄〕八名、下總本蛾作蟻、類聚名義抄云、與蟻同、或本云與蛾同、彼所見本亦或作蟻、或

作蛾也、按此云與蛾同者、謂其訓與蠶蛾同也、作蛾爲是、

〔類聚名義抄〕虫十蚕コカヒ

〔倭名類聚抄〕十九蠶音元、和名奈都古、玉篇云蠶音元、和名奈都古、晚蠶也、

〔重修本草綱目啓蒙〕二十七原蠶一名蠶、通 六月中旬ノ比、春蠶ノ雌蛾卵ヲ紙上ニ産ツケタル者、初ハ色白シテ形圓ニ長ク、頭ニ微尖アリ、三

日許ヲ歷テ、色黄ニ變ジ、形扁ク凹トナル、又四日許ヲ歷テ、淺黒微紫色ニ變ズ、又日ヲ歷テ、頭尖黒

色ニ變ジ、漸ク全ク黒色トナリ、一日ヲ歷テ、其尖ヨリ卵ヲ穿チ生出ス、此ヨリ漸ク成長シ、眠起ス

ルコト、四度過テ、繭ヲ爲シ、蛾ニ化スルコト、春蠶ト同シテ、日數早シ、藥ニハ蛾ト沙トヲ用ユ、

雄原蠶蛾 ナツゴノ蝶 雄ヲ用ユ、雌ハ用ヒズ、三才圖會ニ、爾雅正義ヲ引テ、羅卽是雄、蛾卽是雌

ト云フ、廣濟譜ニ、蛾出第一日者、名苗蛾、末後出者、名末蛾、皆不可用、次日以後出者、取之ト云、コレハ

種ヲ取ル蛾ヲ擇ブヲ云、藥ニハ必シモ拘ラザルベシ、

〔倭名類聚抄〕十九蠶今案、卽是蚊虻之虻字、文字集略云、也、見下文、和名比々流、鹽内老蠶也、

〔倭名類聚抄〕十九蠶今案、卽是蚊虻之虻字、文字集略云、也、見下文、和名比々流、鹽内老蠶也、